

探Q NEWS

探究進学科・文科・理科の活動を発信します

Vol.10

2年探究文科・理科

Vol.10

「SSH 交流会参加

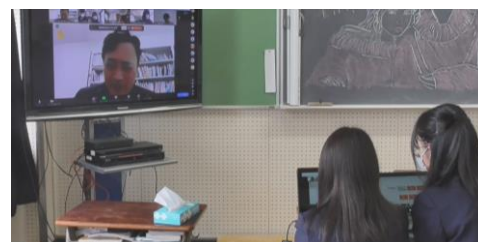
R4.3.22

～Global Science Leadership～」

3月19日(土)に、SSH交流会支援事業～Global Science Leadership～に、本校探究文科(11)と理科(2)の計13グループの生徒が参加しました。この事業は国際的な研究発表の場を想定し、英語を用いたプレゼンテーション能力や質疑応答能力を育むとともに、社会的背景の違いによる価値観の相違を理解する資質の情勢を図るため、藤島高校が実施したものです。生徒たちは自分たちが問を立て、実験や調査・研究を行った「課題研究」を10分間で英語によるプレゼンテーションを行い、その後講師から質問を受けました。当日参加した学校は本校の他、藤島・高志・敦賀の県内高校と膳所(滋賀県)、De La Salle Lipa 高校(フィリピン)です。

以下は発表されたタイトルです。

- ・ Takefu High School Students and Gender
- ・ Improving Children's Communication
- ・ Exploring School Rules and Students' Attitudes
- ・ Making Good Use of "Hometown tax" Payments
- ・ Insect Food Can Save the Earth
- ・ How are our answers influenced by the question unconsciously?
- ・ Takefu High School's Version of SDGs in 2021
- ・ Internet Romance
- ・ Effects of Shadowing on our English Speaking Skills
- ・ Takefu High School and its Education in the Future
- ・ Effects of Catch Phrases



・ Numerical Conversion of Maitake Mushrooms' Decomposition Rate Using Color Code

・ Effects of Ultrasound on E.Coli Cultures

英語でのプレゼンテーションということで、始まる前は少し緊張した様子でしたが、いったん始まると堂々とした発表でした。授業で行った英語の発表、TKF Project Presentations やディベートなどで培った質疑応答力を駆使して、しっかりとした発表を行っており、成長を感じることが出来ました。

プレゼンを聞いた福井大学の先生方からも「大変すばらしい発表だった」「質疑応答で適切に答えていて驚いた」など高い評価を頂きました。

以下生徒の感想です。

「まだまだリスニングが甘いなあと感じました。うまく聞き取れない状態は、ただリスニング力を伸ばすだけでなく、単語力を強化したり、文法構造をもっと理解できるようにしたり、発表の流れや内容を理解することで改善できると思うのでそこも含めてこれから頑張りたいです。」

「わかりやすいスライド、発表を心がけると言う鉄則を今回の経験を通して身につけることができました。また、日頃の例文暗記をしていると、プレゼンの原稿作りでも表現の幅が広がって、覚えておいてよかったな、と思えました。」

「スライドに情報量が多いと、私たち聴衆からすると発表がごちゃごちゃして分かりにくいということが改めて分かった。自分たちの発表はスムーズにできて失敗はなかったけど、質問された内容が全然分からなくて答えることができなかった。ALTの先生方もよく分からない質問だったとおっしゃっていたので、答えることができないときには素直にそういうことも大事だと思った。他の高校の生徒やフィリピンの生徒の英語の発音が良すぎてもっと練習しないといけないなと思った。」

1 年探究進学科

「課題研究のテーマ設定に関する講義

& アンケートの実施に関する講義」

3月14日(月)に仁愛大学の高野秀晴先生、3月16日に織田暁子先生をそれぞれお迎えして、2年生から本格的に始まる課題研究についての講義をしていただきました。高野先生からは課題研究のポイントは「しぼる」「ひねる」「調べ方を意識する」ことで自分たちの設定する問が良くなることを学びました。また次年度文科に進む生徒対象に行ったアンケートについての講義では、文献調査の重要さとアンケートを実際に行うときの注意点などをワークショップ形式で学びました。

いよいよ次年度から始まる課題研究を生徒たちは楽しみにしている様子でした。

